

# 令和3年度 押原小学校 学校関係者評価書

令和4年3月1日（火）

実施日 令和4年2月25日（金）14時00分～16時10分

会場 押原小学校図工室

参加者 学校運営協議会委員13名

## 1 学校側から提案された内容

- ・令和3年度 学校の自己評価の結果と改善策
- ・令和3年度 学校評価（教職員アンケート）の結果と改善策  
(前期/後期と比較できるもの)
- ・令和3年度 「押原小学校 学校評価 保護者アンケート」結果と考察
- ・押原小学校 学校評価 保護者アンケート集計結果  
(R2/R3と比較できるもの)
- ・令和3年度 押原小学校 児童アンケート集計結果, 児童アンケート (考察)

## 2 協議された主な内容

- ・令和3年度 学校の自己評価についての質疑, 意見及び感想
- ・本校の教育活動についての意見及び今後の改善策

### \*自己評価の概要

- ・54の評価項目（後期の教職員アンケート24項目, 保護者アンケート15項目, 児童アンケート15項目）のうち, すべてにおいて, 肯定的評価〔1（そう思う）と2（どちらかというと思う）〕が80%を超えている。
- ・最頻値（1から4のうちで, 最も回答の多い値）については, 全54項目中, 1が47項目であった。
- ・否定的評価〔3（どちらかというと思わない）と4（そう思わない）〕をポイントが高かったもの（10%を超えたもの）は, 児童アンケートの「⑬あなたは, 家庭訪問や個別懇談が終わったあとは, お家の人と学校のこと（勉強や友達のこと）について話をしている」と教職員アンケート（6）多様な学習と質の高い授業の実践「①あなたは, iPad・パソコン・電子黒板等の電子機器を活用した授業を実践している」の2項目であった。
- ・全ての評価項目で, 肯定的評価を得たことを継続できるように今後もチーム押原小学校として学校長の指導の下に取り組んでいきたい。中には, 3, 4の否定的評価も少なからずあることから, 今後も全体の傾向だけを見て判断せず, 教職員や児童一人一人に目を向け, 保護者や地域の声に耳を傾け, なぜその評価をしたのか, しっかりと分析を行い, 丁寧な対応を行っていきたい。

### \*教職員アンケートの概要

- ・すべての項目で1と2を合わせた肯定的評価が85%以上となっている。最頻値が後期は1のものが18項目、前期後期どちらも1のものが14項目であった。1の割合が前期から後期に40%伸びた項目は(7)②職員会議や校内委員会、校内研究等への参画の項であった。最頻値が2のものが5項目、否定的評価が10%以上の項目が1つ、(6)①電子機器を活用した授業の実践であった。

\*保護者アンケートの概要

15項目全てが肯定的評価だった。最頻値が1である項目が14、2である項目が1。これは⑧「学校は家庭学習について学校と連携を図っている」であった。昨年度と本年度を比較すると1の「そう思う」が5%以上伸びているものが3項目(③、⑬、⑭)反対に5%以上下がっているものが3項目(④、⑨、⑩)あった。

\*児童アンケートの概要

全ての項で肯定的評価だった。否定的評価が3つのアンケート(教職員・保護者・児童)を通じて最も高かったのは⑬「家庭訪問や個別懇談後、家の人と学校のこと(勉強や友達のこと)について話をしている」だった。

### 3 課題として出された意見及び感想

#### <アンケートについて>

- ・今年度から児童アンケートも行った。アンケートの中には、答えにくいものもある。重点目標を踏まえたアンケート項目になっていない。目標を絞ったり、優先度を考慮したりする等、アンケート内容の更なる精査をしてほしい。
- ・児童アンケート①で否定的回答をしている児童に対して対応してほしい。

#### <家庭学習・家庭との連携について>

- ・保護者と児童の捉え方が異なる。個別懇談において子どもの実態を知ることができた。子どもと保護者が向き合って話をしていく必要がある。先生方や学校の責任ではない場合もあると感じた。
- ・高学年の児童にとって、児童アンケートの⑬、⑭は、今後毎年実施することで意識付けができるのではないだろうか。

#### <ICT活用について>

- ・1人1台端末が全学年で導入されたが、各学年の到達目標はあるのか、現状を伺いたい。→明確なものはないが、他学年の活用を参考にするなど、意識をしながら取り組んでいる。文字入力に関する学年ごとの大まかな目標など実践を通じて目安となるものが見えてきている。
- ・コロナ禍でリモート等、オンライン授業についての考えは何かあるのか。県内や他県の様子を含め伺いたい。→課題があり、本町本校では実践できておらず、現在準備中である。PC持ち帰りのできるものとして、①リアルタイム双

方向②ネット上のドリル活用がある。

- ・コロナ禍で来校する機会が限られている。学校の様子をY o u T u b e配信する等検討してほしい。

<その他>

- ・アンケートに若い教職員の悩みや記述はないか。→アンケートには記述はないが、初任者には拠点校指導員がおり、2年目3年目の教諭にはアドバンスティーチャー事業がある。また、スクールカウンセラーを教職員も利用できる。
- ・今までやってきたことを継続することが大切である。あいさつについては、毎年1年生にしっかり教えていくことにつながっていく。きちんと挨拶ができるよう継続して取り組んでほしい。

全体を通して、押原小学校の教育活動はよい評価を得ている。

\*特記事項 なし